

都道府県立図書館による医療健康情報サービスの提供とその意義

田村俊作, 慶應義塾大学文学部(tamaram@z3.keio.jp)

池谷のぞみ, 慶應義塾大学文学部(nozomi.ikeya@a8.keio.jp)

須賀千絵, 慶應義塾大学文学部非常勤講師(chiesuga@z8.keio.jp)

三輪眞木子, 放送大学 ICT 活用・遠隔教育センター(miwamaki@ouj.ac.jp)

越塚美加, 学習院女子大学国際文化交流学部(mika.koshizuka@gakushuin.ac.jp)

1. 研究の背景と目的

1.1 研究の背景

公共図書館は、地域の情報拠点として、地域のさまざまな課題解決を支援している。医療健康情報サービスもその一つで、近年多様な取組が展開されてきている。

¹⁾²⁾³⁾JLA 健康情報委員会による調査が行われた 2009 年の時点でも、1,298 館の回答館のうち 20%を超える 266 館が医療健康情報のコーナーを設置することをすでに実施、実施予定もしくは検討中であった。²⁾

著者らは、公共図書館におけるサービス・デザインのための制度的・組織的課題を明らかにする研究の一環で、地域における、公共図書館や医療機関における医療健康情報サービスの現状について訪問調査を中心として把握している。公共図書館のなかでも、現在かなりの数の都道府県立図書館が医療健康情報サービスを提供しており、個々の事例の紹介はある程度なされている。しかしながら事例を横断的に見ながら具体的にどのようなサービスを提供しているの

か、市町村立図書館の同種のサービスと異なる点はあるのかどうか、都道府県立図書館が提供することによどのような意義があるのか、といった点について整理した議論はまだない。

1.2 研究の目的と方法

本研究では、主に昨年度来行ってきた都道府県立図書館への訪問調査と各都道府県立図書館が公開している Web ページに対する調査の結果に基づいて、都道府県立図書館がどのようなサービスを提供しているのか、具体的なサービス内容を整理し、その特徴を分析することを通じ、その意義を考察する。

2. 医療健康情報提供の概観

2.1 全体の傾向

全都道府県立図書館が提供する医療健康情報に関するサービスについて、主として Web 上の記載内容に基づいて調査した結果を表に示す。(1)医療・健康に関する図書や資料をまとめて提供するコーナーの設置を

しているのが 19 館，(2)ブックリストの提供が 17 館，パスファインダーが 21 館，リンク集が 26 館であり，(3)医療専門家による相談会を図書館で開催しているのが 8 館であった。闘病記をまとめて排架しているのは 12 館であった。

2.2 医療健康情報のコーナー

コーナーでは，NDC 分類 49 や 598 の医療関係の図書や医療・健康系の雑誌をまとめて排架し，利用者が閲覧しやすいように配慮しているところが多く見られる。館によってはさらに闘病記もまとめて近傍に排架している。また医療・健康系の論文が探せるデータベースを調べられるようにしているところも見られる。さらに，医療関係機関のパンフレットやイベントのちらしを収集して利用者が自由に持ち帰ることができるようにしてある館も多い。今回は調査項目にしなかったが，患者会の資料の収集を行っているところも見られる。さらに，医療・健康関連の新聞記事の切り抜きを展示しているところもある。

コーナーを設置している館では，(1)そのコーナーの紹介を中心とした医療健康情報サービスを記載した Web ページを作成していると同時に，(2)ブックリスト，パスファインダー，リンク集の作成と提供など，コーナーに集めた資料を補完するような複数のサービスを同時に提供する傾向がある。こうした図書館では，医療健康情

表 都道府県立図書館における医療健康情報サービス

ma

図書館名	ウェブページ	サービス内容					相談会
		コーナー	闘病記	ブックリスト	パスファインダー	リンク集	
北海道立					○	○	
青森県立							
岩手県立				○	○		
宮城県							
秋田県立	○	○		○		○	
山形県立				○			
福島県立					○		
茨城県立							
栃木県立				○		○	
群馬県立		○	○			○	
埼玉県立久喜	○	○		○	○	○	
千葉県立西部					○		
東京都立中央	○	○	○	○	○	○	○
神奈川県立 川崎							
新潟県立					○	○	
富山県立							
石川県立							
福井県立					○	○	○
山梨県立					○	○	
県立長野							
岐阜県	○	○	○		○	○	
静岡県立中央	○	○			○	○	○
愛知芸術文化センター 愛知県					○	○	
三重県立	○	○	○	○			
滋賀県立					○		
京都府立						○	
大阪府立中央					○	○	
兵庫県立							
奈良県立図書館情報館	○*	○	○				○
和歌山県立	○	○がん		○	○	○	
鳥取県立	○	○	○		○	○	○
島根県立	○	○がん		○		○	
岡山県立				○	○		
広島県立						○	
山口県立山口	○	○	○	○		○	
徳島県立							○
香川県立				○		○	
愛媛県立		○	○	○	○	○	
高知県立	○	○	○		○	○	
福岡県立		○	○	○	○	○	
佐賀県立	○	○		○		○	
長崎県立長崎				○	○		
熊本県立							
大分県立	○	○				○	○
宮崎県立		○	○	○		○	○
鹿児島県立 奄美							
沖縄県立	○シニア	○シニア	○				
合計	15	19	12	17	21	26	8

*闘病記の紹介ページにコーナーについても記載

報についてあるまとまりを持ったサービスを提供しようとする際の起点としてコーナーを設置し，そのコーナーの資料提供を核

としてサービスを構築していることがうかがわれる。

他方、コーナーを設置していない館でも、リンク集をはじめとしたアクセス手段を提供しているところも見られ、コーナーでのまとまった資料提供を代替しようとしていることがうかがえる。

2.3 闘病記文庫

闘病記は、通常文学などに分類排架され、検索が難しい資料であるため、それを集めて排架することは種々の状況で闘病記を利用しようとする人にとって意義があるとされている。健康情報棚プロジェクトから寄贈された図書を核に「闘病記文庫」として提供しているところもある。闘病記については医学的見地からその扱いについて意見が分かれるところもあることが背景にあるためか、積極的に闘病記を収集して案内しているのはコーナーを設置している 19 館中 12 館にとどまっている。

2.4 相談会の開催

地域の医療機関や看護協会との連携により、主に看護師や保健師が図書館で定期的に相談会を開催している例がある。コーナーの設置がないところで相談会を開催している館もあり、相談会の開催は必ずしも常に図書館の他のサービスと連動しているわけではなさそうである。

3. サービス提供の事例

3.1 都立中央図書館

コーナーを設置し、その資料提供を中核に据えた医療健康情報サービスを体現していると思われるのが都立中央図書館のコーナーである。医療を受ける市民に自己判断・自己責任が求められるようになってきたことを背景として始められた「医療情報サービス」のコーナーは、いわゆる医学に限定されない、医療機関や保健医療制度など広範囲の情報を提供できるように整備された。⁴⁾ その中にはデータベースも含まれている。

こうした資料の内容を充実させるだけでなく、コーナーの「使いやすさ」を徹底的に追求していることも、都立中央図書館の大きな特徴である。⁵⁾ 例えば、「ここから調べる」コーナーという「コーナー内コーナー」を設け、様々な調査の手始めに調べるのに有益な基本的な資料を一カ所に集め、目立つサインを設置している。また、内科学の中の分類を細かい病名で分けることで自分に必要な病気の本を特定できるように工夫をしている。これは闘病記文庫についても同様で、大まかな病気の種類だけでなく、細かな病名のリストも整備されている。

3.2 埼玉県立久喜図書館

医療健康情報のコーナーの設置に加えて、外部機関との連携によって展示や講演会などを企画することは都立中央図書館も含め、多くの館が実施している。その中で埼玉県

立久喜図書館は、市民団体と展示企画を実現させている。2013年夏に開催された資料展示「がん、もっと知りたい」は、県庁職員の提案をきっかけに図書館が患者会の4団体と一緒に作り上げたものである。団体の活動を伝えるパネルや、患者の視点で作られた地域の医療機関リスト、治療中に使えるキャップの紹介などから構成されていた。4団体が同時に展示をすることで互いが刺激を受け、以前は連絡を取り合うこともなかった団体間で交流も始まったという。

図書館が整備した資料に基づく情報提供に限定することなく、医療・健康に関わる様々な組織や団体が持っている情報を提供する機会を図書館が提供することが市民に対して思いがけない可能性をもたらすことを示す好事例といえる。

4. 考察・まとめ

都道府県立図書館における医療健康情報サービスは、コーナーにまとめた資料提供を中核とし、それを補完するようにパスファインダーやブックリスト、リンク集を提供する形で構築されている傾向がある。さらに外部の組織との連携によって講演会や展示、相談会などの企画をたてることも行われている。他方、コーナーは設置しなくてもリンク集をはじめとしたアクセス手段を充実させることにより、情報にアクセスしやすいように工夫している例もある。

都道府県立図書館が提供する医療健康情報サービスは、今回の調査結果から見る限り、その内容において市町村立図書館が提供するものと変わらないが、収集・提供する資料などにおいて、概してより専門的である。また、図書館によっては、市町村立図書館のモデルとなることを意図しているところもあった。

- 1)特集：医療・健康情報を市民へ。図書館雑誌。2011, vol.105, no.1, p.16-30.
- 2)JLA 健康情報委員会。健康情報サービスの実態および「がんに関する冊子」の利用アンケート調査結果報告。図書館雑誌。2010, vol.104, no.6, p.386-389.
- 3)JLA 健康情報委員会。健康情報サービスの実態および「がんに関する冊子」の利用アンケート調査結果報告(第2報)。図書館雑誌。2011, vol.105, no.1, p.20-23.
- 4)中山康子。東京都立中央図書館における「医療情報サービス」。医学図書館。2004, vol.51, no.4, p.342-344.
- 5)島林智香子。都立中央図書館の健康・医療情報サービスの実態。リスン。2010, no.145, p.1-4.